



月の輪田 田植え式

丹後の可能性と、子どもたちの未来のために 政策を理想で終わらせない。

私はこの4年間、人生で初めて「民間の人間」として仕事をしてきました。それまでは公務員として、市民の皆様のお役に立つ仕事をする、という意識で全力を尽くしてきたつもりです。しかし民間を経験し、まだまだ学ぶべきことがある、と痛感いたしました。その経験の中で改めて強く感じたのは、はたらく皆様、住民の皆様が、毎日を一生懸命生きておられる、ということの尊さと、迫ってくる実感。そして、次代を担う子どもたちの可能性を広げるためには、育つ環境、学ぶ環境を整えることが極めて大切だということでした。

私は「喜び」とともに「幸福」という言葉が好きです。住民の皆様のご幸福を考えると、誰一人置き去りにできない。だからこそ私は、200円パスの時も、久美浜の原発拒否のときも、白か黒かという一方に偏った考えではなく、「関わる人、全員にとってよい結論」にこだわってきました。—全員にとって—にこだわることで、丹後の可能性がさらに広がるからです。

この幸福を実現するためには、私一人の力ではどうしようもありません。政策を、理想で終わらせないために、多くの方と力をひとつにし、実現していくこと。私は官僚時代、市長時代、実に多くの方から実際のな力をいただき、活動していました。そのことに改めて気づかせていただいた4年間でもあります。心からの感謝と共に、「一人の幸福のため、お役に立ちたい」という原点に立ち返って、再度活動していく想いです。

世界に誇れる、京丹後へ。